金ケ崎が連覇達成

男子は金ケ崎が連覇。優勝を決め喜ぶメンバーたち

県中学校総体

バレーボール

（北上総合体育館）

【男子】

▽1回戦

水沢2－0北陵

矢巾北2－1江刺一

宮野目2－0東水沢

▽2回戦

金ケ崎2－0大迫

水沢南2－0花巻

水沢2－0大船渡一

▽準々決勝

金ケ崎2－0雫石

水沢南2－0和賀西

和賀東2－1水沢

▽準決勝

金ケ崎2－0水沢南

見前南2－1和賀東

▽東北大会第3代表決定戦

金ケ崎2－0見前南

※優秀選手賞（胆江勢）…北條忠輝、畠山悠太（金ケ崎）、高橋修尉（水沢南）

【女子】

▽2回戦

金ケ崎2－0北陵

江刺一2－0宿戸

▽3回戦

金ケ崎2－0花巻

江刺一2－0見前南

▽準々決勝

金ケ崎2－0気仙

大船渡一2－0江刺一

▽準決勝

厨川2－0金ケ崎

大船渡一2－1雫石

▽東北大会第3代表決定戦

金ケ崎2－1雫石

▽決勝

厨川2－0大船渡一

※優秀選手賞（胆江勢）…本開菜月（金ケ崎）

第61回県中学校総体は18～21日、県内各地で16競技が行われ、バレーボール男子は金ケ崎が連覇を達成、金ケ崎女子が3位に入り東北大会出場権を獲得した。ソフトテニス団体は男女ともに前沢が栄冠。柔道個人戦は男子81㌔級高橋凌（金ケ崎）、女子40㌔級佐藤瑠夏（江刺一）、女子70㌔超級芳賀美月（金ケ崎）が頂点に立った。

陸上の男子走り高跳びは、郷右近駿太（水沢南）が制した。バドミントン男子シングルスは、菊地拓也（江刺一）が優勝に輝き、男子団体は前沢が3位で東北切符を手にした。卓球女子個人戦は、菊池愛蘭（東水沢）が準優勝。地元興州市で行われたバスケットボールは、前沢男子が準決勝で敗れ、惜しくも3位となった。

チームワーク再確認

金ケ崎男子

優勝まであと1点。金ケ崎の畠山悠太主将（3年）のライトアタックが相手コートに突き刺さった瞬間、メンバー全員がコート上で飛び跳ねて喜びを爆発させた。

昨年から県新人戦、県選抜、県春季大会を制し県内負けなしのメンバー。優勝候補として臨んだ今大会もセッター北條忠輝（3年）のセンスあるトス回しを軸に、ライト畠山主将、レフト武田柊嗣（2年）らバランスのとれた攻撃力でトーナメントを駆け上がった。

決勝の相手は、昨年と同じ見前南。第1セットは金ケ崎は接戦。中盤には選手の間を狙う相手の絶妙なサーブが畠山主将を襲い、8連続失点。思わぬ点差をつけられたが地力のある金ケ崎がここから反撃。北條のサーブポイント、レフト武田のスパイクなどで逆転に成功した。

「主将として引っ張らなければならないのに、みんなに引っ張ってもらった」と苦笑いの畠山主将。ピンチの場面も大きな声を掛けてくれた仲間たち。チームワークの良さを再確認した試合だった。自分のミスで招いた第2セットの悪い流れ、そして優勝を決めた自身のスパイク。「最後に託してもらった。期待に応えられたかな」とほっとした表情ものぞかせた。

昨年は全国ベスト16。東北大会に向け、佐々木将監督は「全員で拾って全員で攻撃したい」と表情を引き締める。畠山主将も「サーブカットがしっかり入れば攻撃はつくれる。チームと自身に喝。先輩たちを越える全国ベスト8へ。金ケ崎が次のスタートを切った。

強気のプレーで

金ケ崎女子

女子の東北大会第3代表決定戦「金ケ崎―雫石」は、フルセットにもつれ込む熱戦。最後は金ケ崎が25－20で雫石を突き放し、うれしい東北切符を手にした。コートでは金ケ崎の攻守の要、レフト本開菜月（3年）が躍動。ライト、センター、下がってはバックアタック、縦横無尽の攻撃。本開に相手のマークを集めて裏を突いて吉田杏（2年）が速攻。多彩な攻めで相手守備を翻ろうした。

「苦しい時、みんながたくさんつないでくれた」と本開、「セッターのほうが合わせてくれた」と吉田。攻撃陣を支えてくれたバックの堅い守りに頭を下げた。

東北大会に向けブロック強化がチーム課題。「1勝を目指して頑張りたい」と仲村舞花主将（3年）。本開も「集中力が切れてしまった場面がある。いつでも強気でプレーしたい」と気合十分に東北大会を見据えた。

女子東北大会第3代表決定戦　金ケ崎―雫石　抜群の攻撃力をみせた金ケ崎の本開菜月（右）